

甲賀市の抗議行動に参加

足立入谷地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会
会長 横山 修平

去る11月19日・20日、滋賀県甲賀市の柏重区環境整備オウム対策委員会等が主催する「オウム抗議集会」に参加するため、水上顧問、齋藤副会長とともに甲賀市に行っていました。

甲賀市住民協議会の委員長とは、昨年12月の法務大臣・公安調査庁長官要請でお話をして以来、懇意にさせていただき、私たち住民協議会が行う抗議行動には、今年の3月と11月に参加していたなど、共に戦う同志として交流を続けております。

今回、20日(日)の午前9時から行われた抗議



開会式の様子

- ### 協議会活動報告
- (令和4年6月1日～令和4年11月30日)
- 6月17日(金) 実行委員会開催 入谷住区センター
 - 6月25日(土) 協議会ニュース25号発行
 - 7月15日(金) 実行委員会開催 入谷住区センター
 - 9月16日(金) 実行委員会開催 入谷住区センター
 - 10月21日(金) 実行委員会開催 入谷住区センター
 - 11月12日(土) オウム真理教(アレフ)への抗議活動
 - 11月18日(金) 実行委員会開催 入谷住区センター
 - 11月20日(日) 甲賀市抗議集会参加
- のぼり旗の交換は毎月実施(計6回)
(この間執行役員会は9回開催しました。)

募金・協賛金

(令和4年6月1日～令和4年11月30日)

| | | |
|--------|----------------|----------|
| 8月12日 | 川口市朝日5丁目町会 様 | 5,000円 |
| " | 川口市朝日6丁目南町町会 様 | 5,000円 |
| " | 川口市朝日6丁目北町町会 様 | 5,000円 |
| " | 川口市末広3丁目町会 様 | 5,000円 |
| " | 川口市弥平2丁目町会 様 | 5,000円 |
| " | 川口市弥平3丁目町会 様 | 5,000円 |
| " | 川口市弥平4丁目町会 様 | 5,000円 |
| 9月14日 | 入谷町会助成金 | 150,000円 |
| 11月18日 | 匿名 | 10,000円 |
| 計 | 9件 | 195,000円 |

皆様のご協力、ご支援ありがとうございました。

の住民協議会に対して、遠いところから参加したことへの御礼と感謝の言葉をいただきました。抗議集会を行ったアレフの水口(みなくち)施設は、24年前にオウム真理教(現・アレフ)が拠点として構え、それ以来、地域住民が不安と恐怖を抱くようになってしまったこと、公安調査庁による立入調査や警察署による日々々の巡回を実施している状況が続いているとお話がありました。

抗議集会には、甲賀市の市長や議長の言葉のほか、現在参議院議員で前知事の嘉田由紀子議員、現知事の三日月大造知事からの激励のメッセージがありました。市長、議長からは、私たち足立区では、「君たち(アレフ)の自己中心、閉鎖的な生活は今も変わらず、我々住民との距離は広がるばかりだ。地域住民と協調し、平穏な暮らしを求めているが、それを望むなら教団から脱会すれば、すぐにでも叶うだろう。オウム真理教が起ころう。一連の事件はこの地では風化しないさせない。我々、地域住民は、君たちがアレフから脱会し家族のもとへ帰ることを希望している」と読み上げられ、その後、水口施設前で代理人弁護士に声明文を手渡しました。

声明文は、相手に抗議をするだけではなく、家族も心配しているから早くに脱会し身近な人安心させてあげて欲しいと言った言葉もあり、施設に住む信者の心に強く届くことを願ってやみません。甲賀市の抗議集会に参加して、今後も住民同士が連携して抗議活動を続け、オウム真理教団体が解散するまで、決してあきらめず戦い続けること、気持ちを新たにしました。

抗議文

我々は、足立入谷地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会である。この建物に住むアレフのみなさん、よくよく聞いてほしい。

オウム真理教とは何か。地域社会から承認されない団体の取るべき正しい決断とは何か。自分が誰か名乗らず地域社会で生活し、アレフを支持して今後どう生活してゆくのか教えて欲しい。地域住民として毎日考えていると不安が消えない。

忘れたくとも忘れられないことがある。まず、松本サリン事件関係者(周辺住民8人が死亡、約600人の重軽傷者)に損害賠償が出来るのか聞きたい。

次に、公証役場事務長仮谷清志さんが品川区の路上で拉致された事件。仮谷さんの遺族に教団として損害賠償はできたのか聞きたい。

次に、地下鉄サリン事件。95年3月20日、警視庁が強制捜査する矢先、東京霞が関に向かう営団地下鉄(丸の内線・日比谷線・千代田線)の計5電車で朝の通勤ラッシュ時、教団信者計5人がサリンを発散させた。乗客と駅員13人が死亡、6000人以上が重軽傷を負う最悪の惨事と成った事件。被害者支援は出来ているのか聞きたい。

現在でもパニックに陥り上手に社会生活が営めていない。オウムの犯罪で多大の損害を受けた被害者(人々)は如何すればいいのか。せめて現状の回復を願うことが出来るだろうか。

それは、今でも教祖麻原彰晃の経典を後生大事に守り続けるオウム(アレフ)が、被害者に損害賠償する事である。全国にいる被害者(善人な人々)の救済こそがオウム(アレフ)の事件後の存在意義ではないか。信者の皆さんの来世がそこに有る。

我々は、麻原亡き後も教祖として崇め信仰の中心に置き信じ続けているオウム(アレフ)が信じられない。

我々は、「オウム反対、アレフ反対、絶対反対」をスローガンとしてアレフが解散するまで全国の同志と共に戦い抜く。

令和4年11月12日

足立入谷地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会

募金・協賛金のお願い

協議会の活動は、募金・協賛金で運営されています、安全・安心な町をとり戻すために、是非皆様のご支援・ご協力をお願いします。

足立入谷地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会
東京都足立区舎人 1-3-26 電話 080-2378-3537